



## 平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月6日

上場会社名 シスメックス株式会社  
コード番号 6869 URL <http://www.sysmex.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 家次 恒  
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営管理本部長 (氏名) 釜尾 幸俊

TEL 078-265-0500

四半期報告書提出予定日 平成25年8月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	39,547	24.8	4,780	17.1	5,057	38.5	3,066	32.9
25年3月期第1四半期	31,676	3.0	4,082	33.8	3,651	22.6	2,307	39.1

(注)包括利益 26年3月期第1四半期 5,651百万円 (—%) 25年3月期第1四半期 △493百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	29.68	29.56
25年3月期第1四半期	22.44	22.38

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第1四半期	169,014	122,809	72.5	1,185.72
25年3月期	173,010	119,153	68.7	1,151.38

(参考)自己資本 26年3月期第1四半期 122,536百万円 25年3月期 118,800百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	17.00	—	23.00	40.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	21.00	—	21.00	42.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	82,000	22.1	14,000	32.2	14,000	39.3	8,700	36.2	84.21
通期	175,000	20.2	30,000	37.6	30,000	30.6	18,500	30.6	179.04

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期1Q	103,562,616 株	25年3月期	103,399,416 株
26年3月期1Q	219,098 株	25年3月期	218,696 株
26年3月期1Q	103,289,392 株	25年3月期1Q	102,845,748 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 平成25年5月8日に公表致しました連結業績予想は、発行済株式数及び自己株式数の変動に伴い1株当たり当期純利益につき変更しており、その他の業績予想数値は変更していません。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- 決算補足資料(和英)は平成25年8月6日(火)に、当社ホームページに掲載いたします。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表等	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や中央銀行の金融緩和によって、企業部門の生産活動が回復し、雇用・所得環境にも改善が見られるなど、景気は緩やかに回復しております。一方、米国では、雇用環境は緩やかに改善を続けているものの、企業部門で緊縮財政の影響が残っており、欧州では、債務問題とそれに伴う緊縮財政による混迷が長期化しております。また、中国では、内需や輸出の鈍化に伴い減速感が強まっており、海外経済の先行き懸念は継続しております。

医療面におきましては、国内では、医療産業が政府の成長戦略の柱と位置づけられるなかで、メディカル・エクセレンス・ジャパンの改組や、日本版の衛生研究所を設立する方針が打ち出されるなど、医療関連産業の今後の活性化が見込まれています。欧米先進国では、医療費抑制と制度改革に取り組んでおり、スペインやイタリア等では緊縮財政措置として医療費削減が継続しています。米国では、無保険者の解消に向けた動きが本格化しています。また、中国では、都市・農村での医療サービスの格差解消を目指し、医療保険制度を含む医療制度改革が推進されています。一部に不安定要素は存在するものの、基本的に医療関連需要は底堅く推移しております。

このような状況の下、当社グループにおきましては、国内市場及び海外市場における検体検査機器の今後の需要増加による生産量拡大に備えるため、検体検査機器の生産拠点である当社加古川工場（兵庫県加古川市）に隣接した新工場の建設を決定いたしました。同時に、国内関係会社であるシスメックスメディカ株式会社、シスメックスRA株式会社においても、既存の工場の拡張に着手し、当社グループ全体での検体検査機器の生産能力を増強してまいります。

また、韓国の販売代理店を子会社化し、販売・サービス体制を一層強化いたしました。当社の強みである学術支援の充実、サービスの提案を通して、より一層の顧客満足度向上を図ってまいります。

#### <参考>地域別売上高

		前第1四半期 連結累計期間		当第1四半期 連結累計期間		前年同四半期比 (%)
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
国	内	7,614	24.0	7,734	19.6	101.6
海外	米州	6,616	20.9	8,282	20.9	125.2
	EMEA	9,039	28.6	12,048	30.5	133.3
	中国	6,537	20.6	8,557	21.6	130.9
	アジア・パシフィック	1,867	5.9	2,924	7.4	156.6
海外計		24,061	76.0	31,812	80.4	132.2
合計		31,676	100.0	39,547	100.0	124.8

(注) 従来「欧州」として表示しておりましたセグメント区分は、ヨーロッパ (Europe) から中東 (Middle East)、アフリカ (Africa) まで広大な地域を含んでおりますが、セグメント区分をより正確に表すために、当第1四半期連結会計期間より「EMEA」に名称を変更しております。なお、当該セグメント区分に属する国または地域に変更はありません。

国内販売につきましては、大規模医療機関の設備投資は底堅く推移しており、ソリューション提案を継続して推進した結果、国内売上高は、前年同期に大型案件売上があった反動により血球計数検査分野は微減となったものの、血液凝固検査分野を中心に伸張しました。その結果、国内売上高は7,734百万円（前年同期比1.6%増）となりました。

海外販売につきましては、販売・サービス体制の強化、ソリューション提案を進めてまいりました結果、検体検査機器の売上は足踏みしたものの、機器設置台数の増加に伴う検体検査試薬の売上が伸長し、堅調に推移しました。為替相場が円安に推移したこともあり、当社グループの海外売上高は31,812百万円（前年同期比32.2%増）、構成比80.4%（前年同期比4.4ポイント増）となりました。

この結果、当第1四半期の連結業績は、売上高は39,547百万円（前年同期比24.8%増）、営業利益は4,780百万円（前年同期比17.1%増）、経常利益は5,057百万円（前年同期比38.5%増）、四半期純利益は3,066百万円（前年同期比32.9%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 日本

ソリューション提案を引き続き推進した結果、血液凝固検査分野、生化学検査分野を中心に伸張しましたが、韓国の販売代理店の子会社化により、従来は当社における外部顧客への売上高として「日本」に含めて表示していた当該代理店向け売上高が、当第1四半期連結会計期間より「アジア・パシフィック」に含めて表示することになったこと等により、売上高は7,822百万円（前年同期比4.5%減）となりました。

利益面につきましては、グループ会社への輸出売上の伸長等により、営業利益は2,549百万円（前年同期比230.4%増）となりました。

② 米州

米国では、機器設置台数の増加に伴い検体検査試薬やサービス売上が伸長し、増収となりました。中南米においては、為替相場が円安に推移した影響で増収となり、米州全体での売上高は8,171百万円（前年同期比26.9%増）となりました。

利益面につきましては、販売管理体制の強化に伴う販売費及び一般管理費の増加により、営業利益は347百万円（前年同期比4.5%減）となりました。

③ EMEA

直接販売・サービス活動の強化によるベルギーでの販売伸張や、ロシアおよび新興国での販売拡大、スペインにおける入札案件の獲得によって血球計数検査分野を中心に売上が好調に推移し、売上高は12,063百万円（前年同期比34.6%増）となりました。

利益面につきましては、ビジネス拡大に伴う販売費及び一般管理費の増加を増収効果により補い、営業利益は2,173百万円（前年同期比68.6%増）となりました。

④ 中国

市場での販売に回復傾向が見られ、血球計数検査分野、尿検査分野、血液凝固検査分野において、検体検査試薬の売上が伸長したことによって売上高は8,555百万円（前年同期比30.9%増）となりました。

利益面につきましては、販売費及び一般管理費の増加等により、営業利益は961百万円（前年同期比10.4%減）となりました。

⑤ アジア・パシフィック

韓国の販売代理店の子会社化に伴う売上高の増加や、ミャンマーにおける入札案件の獲得、インドネシアにおける機器設置台数の増加に伴う検体検査試薬売上の伸張により、売上高は2,934百万円（前年同期比90.0%増）となりました。

利益面につきましては、販売・サービス体制整備による販売費及び一般管理費の増加を増収効果により補い、営業利益は341百万円（前年同期比725.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末と比べて3,996百万円減少し、169,014百万円となりました。この主な要因は、現金及び預金が5,558百万円減少、受取手形及び売掛金が3,737百万円減少したこと等によるものであります。

一方、負債合計は、前連結会計年度末と比べて7,652百万円減少し、46,204百万円となりました。この主な要因は、支払手形及び買掛金が3,505百万円減少、未払法人税等が2,625百万円減少、賞与引当金が1,596百万円減少したこと等によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末と比べて3,655百万円増加し、122,809百万円となりました。この主な要因は、為替換算調整勘定が2,563百万円増加したこと、利益剰余金が692百万円増加したこと等によるものであります。また、自己資本比率は前連結会計年度末の68.7%から3.8ポイント増加して72.5%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末より6,113百万円減少し、28,193百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動の結果得られた資金は、2,713百万円（前年同期比780百万円減）となりました。この主な要因は、税金等調整前四半期純利益が4,974百万円（前年同期比1,528百万円増）、売上債権の減少額が5,867百万円（前年同期比2,406百万円増）となったものの、仕入債務の減少額が3,910百万円（前年同期比2,272百万円増）、法人税等の支払額が4,348百万円（前年同期比1,692百万円増）となったこと等によるものであります。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動の結果使用した資金は、7,840百万円（前年同期比4,874百万円増）となりました。この主な要因は、有形固定資産の取得による支出が3,490百万円（前年同期比601百万円増）となったこと、前年同期にはなかった子会社株式の取得による収支が3,620百万円となったこと等によるものであります。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動の結果使用した資金は、2,031百万円（前年同期比106百万円増）となりました。この主な要因は、配当金の支払額が2,373百万円（前年同期比419百万円増）となったこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期は、売上高、利益ともに前年同期を上回りました。第2四半期以降については、当初の計画通り推移するものと見込まれることから、平成25年5月8日に公表しました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表等  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	33,830	28,271
受取手形及び売掛金	41,254	37,516
有価証券	627	37
商品及び製品	20,317	21,424
仕掛品	1,472	1,541
原材料及び貯蔵品	4,150	4,110
その他	13,282	13,498
貸倒引当金	△523	△570
流動資産合計	114,411	105,830
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	18,652	18,566
その他（純額）	26,825	28,942
有形固定資産合計	45,478	47,509
無形固定資産		
のれん	1,790	3,927
その他	5,095	5,234
無形固定資産合計	6,885	9,162
投資その他の資産	6,234	6,511
固定資産合計	58,599	63,183
資産合計	173,010	169,014
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,832	11,327
短期借入金	3	3
未払法人税等	3,982	1,357
賞与引当金	4,043	2,447
役員賞与引当金	265	60
製品保証引当金	175	165
その他	22,121	22,037
流動負債合計	45,424	37,399
固定負債		
長期借入金	1	0
退職給付引当金	1,747	1,815
役員退職慰労引当金	160	102
その他	6,523	6,887
固定負債合計	8,432	8,805
負債合計	53,857	46,204

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,711	9,941
資本剰余金	14,651	14,882
利益剰余金	93,947	94,640
自己株式	△259	△262
株主資本合計	118,050	119,201
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	708	731
為替換算調整勘定	41	2,604
その他の包括利益累計額合計	749	3,335
新株予約権	353	272
少数株主持分	0	0
純資産合計	119,153	122,809
負債純資産合計	173,010	169,014



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
売上高	31,676	39,547
売上原価	11,636	14,928
売上総利益	20,039	24,618
販売費及び一般管理費	15,957	19,838
営業利益	4,082	4,780
営業外収益		
受取利息	38	37
受取配当金	20	22
為替差益	—	238
その他	23	28
営業外収益合計	83	326
営業外費用		
支払利息	19	7
持分法による投資損失	15	26
為替差損	465	—
その他	14	16
営業外費用合計	514	49
経常利益	3,651	5,057
特別利益		
固定資産売却益	7	1
新株予約権戻入益	3	—
特別利益合計	11	1
特別損失		
固定資産除売却損	210	38
投資有価証券評価損	—	46
その他	6	—
特別損失合計	217	84
税金等調整前四半期純利益	3,445	4,974
法人税、住民税及び事業税	951	1,525
法人税等調整額	186	382
法人税等合計	1,138	1,908
少数株主損益調整前四半期純利益	2,307	3,066
少数株主損失(△)	△0	△0
四半期純利益	2,307	3,066

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,307	3,066
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△65	22
繰延ヘッジ損益	0	—
為替換算調整勘定	△2,735	2,563
その他の包括利益合計	△2,800	2,585
四半期包括利益	△493	5,651
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△481	5,651
少数株主に係る四半期包括利益	△12	△0

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,445	4,974
減価償却費	1,890	2,334
売上債権の増減額(△は増加)	3,461	5,867
たな卸資産の増減額(△は増加)	△363	52
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,637	△3,910
その他	△677	△2,315
小計	6,117	7,004
利息及び配当金の受取額	48	60
利息の支払額	△16	△2
法人税等の支払額	△2,655	△4,348
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,493	2,713
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,889	△3,490
無形固定資産の取得による支出	△251	△621
子会社株式の取得による収支	—	△3,620
その他	175	△107
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,965	△7,840
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	△14
長期借入金の返済による支出	△1	△1
配当金の支払額	△1,953	△2,373
その他	29	358
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,924	△2,031
現金及び現金同等物に係る換算差額	△559	1,043
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,955	△6,113
現金及び現金同等物の期首残高	21,838	34,306
現金及び現金同等物の四半期末残高	19,882	28,193

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	日本	米州	EMEA	中国	アジア・パ シフィック	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	8,195	6,439	8,960	6,536	1,544	31,676	—	31,676
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	8,520	0	86	1	32	8,642	△8,642	—
計	16,715	6,440	9,046	6,537	1,577	40,318	△8,642	31,676
セグメント利益	771	364	1,289	1,073	41	3,540	542	4,082

(注) 1. セグメント利益の調整額542百万円には、セグメント間取引消去150百万円、棚卸資産の調整額372百万円、固定資産の調整額18百万円などが含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	米州	EMEA (注) 3	中国	アジア・パ シフィック	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	7,822	8,171	12,063	8,555	2,934	39,547	—	39,547
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	12,891	2	211	1	41	13,147	△13,147	—
計	20,714	8,173	12,274	8,556	2,976	52,695	△13,147	39,547
セグメント利益	2,549	347	2,173	961	341	6,374	△1,593	4,780

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,593百万円には、セグメント間取引消去25百万円、棚卸資産の調整額△1,520百万円、固定資産の調整額△99百万円などが含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 従来「欧州」として表示しておりましたセグメント区分は、ヨーロッパ (Europe) から中東 (Middle East)、アフリカ (Africa) まで広大な地域を含んでおりますが、セグメント区分をより正確に表すために、当第1四半期連結会計期間より「EMEA」に名称を変更しております。なお、当該セグメント区分に属する国または地域に変更はありません。これに伴い、前第1四半期連結累計期間についても、当第1四半期連結累計期間と同様に「EMEA」と記載しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「アジア・パシフィック」セグメントにおいて、当第1四半期連結会計期間中に韓国の販売代理店の株式を100%取得し、子会社化しました。なお、当該事象によるのれんの増加額は、2,383百万円です。